広島県カキ養殖産業の分布と特徴

小岩井　直人

Ⅰ．はじめに

カキは，ウグイスガイ目イタボガキ科に属する二枚貝の総称，あるいはカキ目もしくはカキ上科に属する種の総称．海の岩から「かきおとす」ことから「カキ」と言う名がついたとされる．カキが食されるようになったのはかなり古く，縄文時代の貝塚からもカキの殻が出土することもある．本研究の対象地域は広島県である(図 1).

広島県は，日本でも有数のカキの養殖地帯であり，その起源は古く室町時代に地撒き養殖法による養殖が行われていた記録も残る．現在では，昭和 30 年ころから盛んになった，筏式垂下養殖法と言われる竹を使っていかだを組み立て，そこにカキをホタテなどの貝殻に付着させた「連」を吊り下げ，沖合に固定して養殖する方法が一般的となり，広島県のカキの生産量は全国シェア 50%を超えるまでに成長した.

しかし，広島県内のカキ養殖域の分布を見ると，そのほとんどが広島湾とその周辺に広がっており，竹原市，三原市方面にはわずかに分布するのみである(図 2).

本研究では，カキ育成の条件や発達してきた背景について調べることで養殖業が広島湾を中心として発達してきた原因について考察する.

Ⅱ．調査方法

本研究では，主に聞き取り調査や歴史についての文献調査を行うことでカキ養殖の際に必要な条件や環境などについて調査し，カキ養殖の発達地域に偏りが出たことについて考察した.

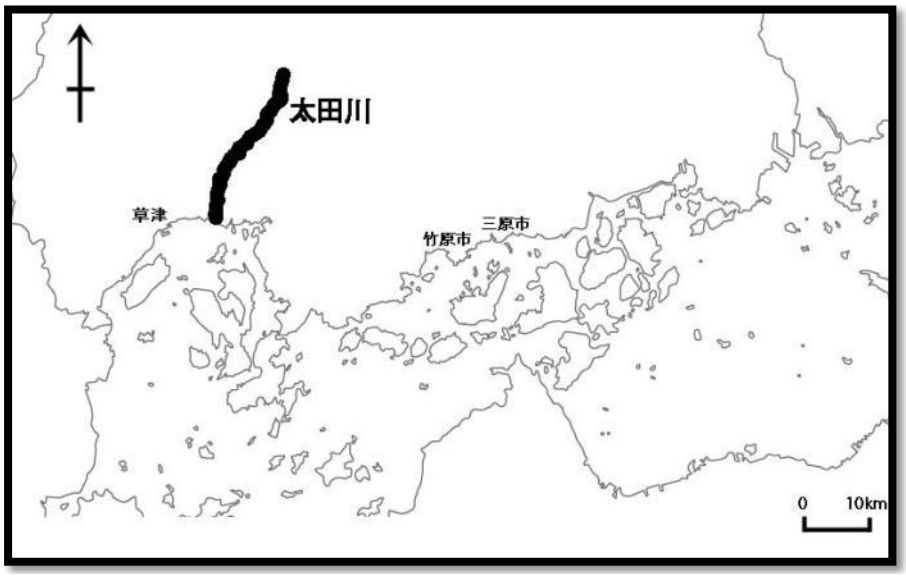

図 1　広島県全図

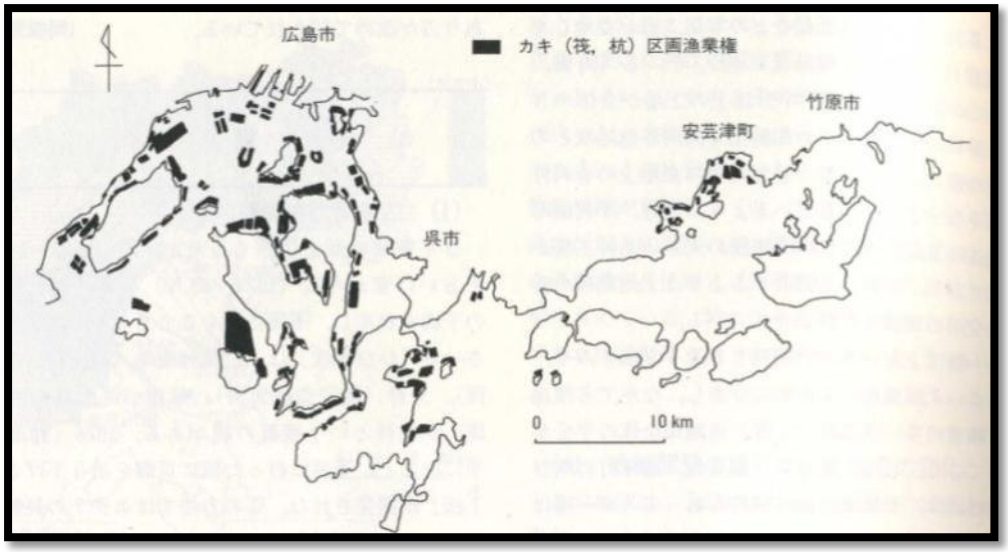

図２　カキ養殖筏の位置

森川ほか（2005）より引用

Ⅲ．調査結果

ⅰ)カキ養殖の歴史

本格的なカキ養殖であるひび建て養殖の発祥には，A…天文年間(1532~1554)に安芸国で発明された．B…元和５年(1619)に浅野長晟(ﾅｶﾞｱｷﾗ)候が紀伊から移封の際にカキを移植した．C…寛永年間(1624~1643)に仁保村淵崎の吉和屋平次郎が石，竹に付いたカキを見て，ひび建の法を思いついた．D…延宝元年(1673)に佐伯郡草津の小林五郎右衛門がひび場を設け養殖を始めた．E…天明４年(1784)に安芸郡坂村の伊予屋利助がひび建の法を独創した(川上，1976)．以上の５説が存在する．そのため年代については不明であるが，いずれの説も江戸時代中であることから，カキ養殖が本格的に始まったのは江戸時代であると考えられている．また，そのいずれも広島湾(太田川河口域)の干潟が発祥であるとされる．これは，太田川の河口域に広がる干潟，河川流がもたらす豊富な栄養塩によって広島湾が格好の好漁場になっていたことによる．

ⅱ）広島湾の環境

カキ養殖には，カキの餌となる大量のプランクトンが必要である．しかし，広島県を流れる河川は小規模のものが多く，プランクトン繁殖のための栄養素を十分に供給しうる規模を持つ河川は，太田川のみである．また，広島湾内には図３のように沿岸流が流れる．そのため，太田川河口域で繁殖したプランクトンは沿岸流に乗って西流し，宮島方面へと移動する．

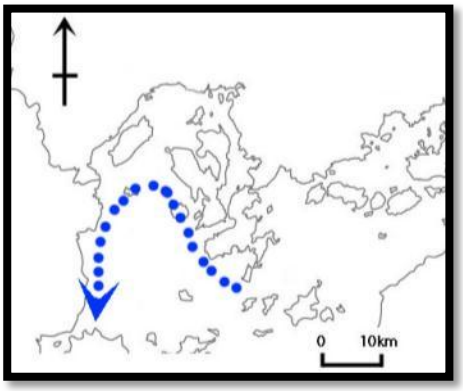

図３　広島湾詳細

点線は沿岸流の流向

森川ほか（2005）より引用、一部改変

ⅲ）販路の拡大

広島湾で養殖されたカキは，カキ船と呼ばれる船で大阪などの市場へと搬送された．カキ船は，1660 年代に草津(図 1)の小西屋五郎八を中心とする万屋武兵衛，大野屋来三郎，胡子屋孫平，小島屋政右衛門の 5 人が自分の作ったカキを各自の船に積み，広島の近港につけ，カキの調理販売を行ったものが発祥とされている．

その後カキ船はその活動範囲を広げ，1,673 年には大阪まで進出していたことが分かっている．

Ⅳ．考察

調査結果より，広島県のカキ養殖が広島湾に集中している理由として以下の内容が考えられる．

ⅰ)広島湾の環境の影響

広島湾は，太田川が流入することによってもたらされた豊富な栄養塩の影響でプランクトンが繁殖しやすい．また，干潟が広がることから，カキ養殖には絶好の環境が整っている．これに対し，竹原市，三原市周辺には豊富に栄養塩を供給しうる河川が存在していないため，プランクトンの繁殖が活発でない可能性がある．

また，広島湾周辺の沿岸流が西流しているため，太田川周辺で発生したプランクトンは宮島方面へと流れていくため，三原，竹原地方には太田川河口部からもあまりプランクトンは移動していかない．

以上より，カキ養殖は広島湾周辺で環境が整っており，逆に三原市方面では環境が整っていないことで，分布に偏りができたことが考えられる．

ⅱ)カキ養殖の歴史の影響

広島県のカキ養殖は，江戸時代に広島湾で始まったことが明らかである．また，養殖したカキの販売方法であるカキ船もまた，江戸時代前半の 1660 年代に広島湾内の草津で起こり，1673 年には大阪まで進出いていた．　このことから，カキ養殖が盛んになったのとほぼ同じ時期にカキの販路が確立し，そのため広島湾周辺には養殖技術があまり発達しなかったことが考えられる．

Ⅴ．まとめ

本研究では，カキ養殖の歴史と広島湾の環境について考えることで，広島県のカキ養殖業が広島湾に集中している理由を明らかにした．しかし，広島県では戦前，造船業が盛んであったことなどから，臨海工業地帯の発達に伴うカキ養殖業の衰退なども影響している可能性がある．今後さらに議論していく必要があるだろう．

参考文献

森川洋・篠原重則・奥野隆史，(2005）日本の地誌 9，中国・四国．朝倉書院，636p

川上雅之，(1976)太田川デルタの漁業史(第一輯～第三輯)